令和 8 年度　第5学年児童　（黄色のセルに第5学年時の年度を記入してください）

授業改善推進中期プラン　国語〔小学校第5学年〕

昭島市立玉川小学校

学年等		項 目	内　容
令和7年度第4学年	令和7年10月	学習に関する児童の実態・課題	○よさ ・自分の考えや書く活動に抵抗は少ない。 ▲課題 ・友達の話を聞くこと、メモを取って理解する力が弱い。 ・説明文の読み取りに課題がある。説明文の文章構成の理解を苦手とする児童が多い。書いてある事柄や筆者の考えを読み解くことが苦手な児童が多い。 ・友達と意見交流をして自身の考えを改善したり、深めたりする児童は一部にとどまっている。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・説明文を正しく読み取る力、内容を理解する力、文章構成や段落相互の関係（話題提示と答えの関係、原因と結果の関係）に気を付けながら、説明文を読み取る力。 ・自分の考えを人に伝え、自分の考えを改善したり深めたりする力。
		具体的な授業改善の方策	・文章の中で、大切な部分を見つけられる技術指導を取り入れる。繰り返しの言葉や筆者の主張・理由などを他の文章と区別して理解できるように時間をかけ丁寧に指導していく。 ・玉川タイム10分間チャレンジ（読むこと・話すこと聞くこと・書くこと）の時間を設定していく。 ・授業場面でペア活動、グループ活動を多く取り入れ、学び合いから自分の思考を高める活動を取り入れる。
	年度末	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	玉川タイム10分間チャレンジの効果もあり、書く活動への抵抗感はほとんどなくなった。また、説明文の読みはできるもののそこから要旨をつかむこと。要旨を基にした自分の考えの記述にはまだまだ課題がある。 話を聞くことと書くことの作業をいっぺんにできないので、メモをとって理解することはまだまだ難しい。
令和8年度第5学年	令和8年10月	学習に関する児童の実態・課題	○よさ ・俳句が好きな児童が多く、作品作りに意欲的に取り組んでいる。また、定型が決まっていれば文章を書くことができる。 ・文章を長文で書くことができるようになってきている。 ▲課題 ・書く活動では、自分の考えを具体例をあげてに書いたり、書いた文章を読み直し修正したりすることに課題がある。 ・話す・聞く活動では、話し合いの中で考えを広げることが苦手。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の中で使えるようにする。文章校正する力。 ・話し合いを通して自分の考えを広げたりまとめたりすること。
		具体的な授業改善の方策	・友達と書いた文章を読み合う機会を増やし、互いにアドバイスを伝え合えるようにする。 ・玉川タイム１０分間チャレンジ（読むこと・話すこと聞くこと・書くこと）を設定し、読み解くことを習慣付ける。 ・様々な教科の中で、ペアやグループなど小集団の中で、自分の考えを深めたり広げたりする場面を設ける。
	年度末	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	

令和 8 年度　第5学年児童　（黄色のセルに第5学年時の年度を記入してください）

授業改善推進中期プラン　算数〔小学校第5学年〕

昭島市立玉川小学校

学年等		項 目	内　容
令和7年度第4学年	令和7年10月	学習に関する児童の実態・課題	○よさ ・友達の考えのよさを自分の考えに取り入れたり、より分かりやすく伝えるにはどうしたらよいか工夫しようとしたりする姿が見られる。（上位の児童） ・積極的に問題に関わり、問題を解こうとする姿勢が見られる。 ・簡単な計算だけであれば7割の児童が習熟している。 ▲課題 ・問題場面がイメージできず、問題解決の手段を選ぶことができない。 ・基礎・基本の内容が定着しておらず、自力で問題を解き進めることができない。 ・一つ一つの知識（公式や計算の仕方など）は覚えられるが意味理解ができていないために場面によっての使い分けや複合して応用することができない。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・既習の内容を使って、図や式を用いて自分の考えを相手に分かりやすく説明する力。 ・特に図形、変化と関係の領域において、意味理解を伴った知識。 ・性質や法則を数学的活動を通して見出す力。
		具体的な授業改善の方策	・昨日の学習内容と比較・関連付けて教えられるようにする。 ・生活場面と結び付けて考えられるようにする。 ・計算ドリル等を用いて、繰り返し練習に取り組ませ理解の定着を図る。 ・単元ごとに教師側から教える（提示する）場面と子供に考えさせる場面（見出す）を習熟度に合わせて設定していく。 ・新出の性質や法則について、操作的活動を通して意味の確認を子供達と行う時間をつくり、違う場面で応用できるようにする。
	年度末	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	・昨日の学習内容と比較・関連付けて教えられるようにしたことで、単元としての学習のまとまりについて理解できるようになってきた。 ・繰り返し練習に取り組ませたことで一定の児童は理解の定着を図ることができた。 ・図形、変化と関係の領域において、は年度当初よりも習熟でき、評価テストのポイントも若干向上した。
令和8年度第5学年	令和8年10月	学習に関する児童の実態・課題	○よさ ・理解できたことを意欲的に友達に教えようとしている。 ・積極的に問題に関わり、問題を解こうとする姿勢が見られる。（上位の児童） ▲課題 ・四則計算や分数、小数の概念の理解が十分でない児童が3割以上おり、自力で問題を解き進めることができない。
		教科で身に付けさせたい資	・既習の内容を使って、図や式を用いて自分の考えを相手に分かりやすく説明する力。 ・基礎・基本を身に付け、既習事項と関連付けて考える力。
		具体的な授業改善の方策	・学習の導入場面で、既習の内容を繰り返し指導し、理解の定着を図る。 ・単元ごとに教師側から教える（提示する）場面と子供に考えさせる場面（見出す）を習熟度に合わせて設定していく。 ・新出の性質や法則について、操作的活動を通して意味理解を深める。
	年度末	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課	